

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2013年10月31日発行 第63号

バンコク在住の西川会長から

タイの学制は2学期制で、5月中旬に始まり10月初旬までが1学期、その後、秋休みを挟んで、11月初旬から3月終わりまでが2学期となっています。2学期が終わると長い夏休みに入り、5月に学年が変わります。

この原稿を書いている今、ちょうど秋休み真っ盛りなのですが、休みの期間になると、目に入る風景があります。1つは飲食店での学生アルバイト、そしてもう1つが街頭募金です。（この時期、塾も大繁盛なのですが・・・）

1つ目のアルバイトですが、タイではどういうわけか高校生が飲食店でアルバイトやインターンをする際、制服のまま、あるいは制服にエプロン姿で作業することが多く、否が応でも目に入ります。アルバイトやインターン生にまで制服を支給するのはもったいないからなのか、制服を着せておくことで何かあったときの言い訳にするつもりなのか、店側の事情はよくわかりませんが、いずれにせよ制服姿のアルバイトを見かけると、「もうそんな時期になったのか」と季節感の乏しいタイで季節の移り変わりを感じます。制服姿を見ると、作業はぎこちないのですが、一生懸命さが伝わってきて、なんとなく応援したくなってしまふから不思議なものです。

そして、もう1つは街頭募金です。日本では慈善団体が主体の募金がほとんどですが、タイで見かけるのは、ほとんどが学生による募金活動です。学生有志がボランティア活動に出かける前に、街頭でその資金を集めるのが目的で、支援先となる地方の貧しい学校や、身障者施設などの写真を使った紹介ボードを作って、それを見せながら寄付を呼びかけるのです。日本と違うのは、募金を呼びかけている彼ら自身がなんとも楽しそうなことです。呼びかけはもちろんするのですが、中には太鼓やギターを持ち込んでリズムをとったり、中には歌を歌ったり、踊りながら、寄付を呼びかけるグループもあるぐらいです。行き交う人々も次々に募金箱にお金を入れて行きます。こうした募金は、多くが学生たちの旅費に消えると言って冷めた目で見ると人にもいないわけではありませんが、それでも、それなりの寄付金が集まるは、困っている人がいたら手を差し伸べようというタイ人の国民性もあるでしょうが、学生たちのこうした活動を後押ししてやろうという思いもあるのかもしれません。

ちなみに、来年はタイの学年歴の変更が予定されています。2015年にアセアン経済統合が予定されていて、学年歴でも各国の足並みを揃えることになったからです。来年は、学年歴の調整年にあたり、いつもより長い夏休みになりそうです。この長い夏休みに街角でどんな子供たちの姿が見られるか今から楽しみです。

西川弘達

報告 1

～給食プログラムの学校視察と学生訪問～

報告者 藤井佳奈

6月27日、ロイエット県

授与式に伴って、キャンが給食プログラムの支援をしている学校の内、ロイエット県にある2校を訪問しました。

1校目のバン・クアン学校は幼稚園、小学校、中学校が一緒になった学校です。学生数は338人（支援開始当時）で、校庭、畑などを見た限りでは綺麗に整備されているという印象を受けました。学校では、始めに先生方からどのように給食プログラムを行っているかという説明がありました。

まず、1、2、3年生にそれぞれノートがあり、誰が何をしたか、日誌のようなものを付けています。それとは別に、支援 B2,000 で何を買ったかという収支簿があり、細かく記入されていました。農作業は任意や係ではなく、授業の中で行っているということでした。

生産しているものは以下の通りです。

- ・とうもろこし、唐辛子、ネギ、ナス、など色々

な野菜。

- ・少し学校から離れた所ではジャスミンライスも作っている。子供に米作りを学ばせる目的もある。

- ・イノシシは主に残飯処理のために飼っている。比較的広々した飼育環境。

- ・魚の養殖

- ・キノコ、栽培用の小屋があります。

このうち、キノコは一度にたくさん出来るので、販売することができ、この地域の特産品でもあるキノコの加工品を作っている工場に売ったこともあるとのことでした。

プログラムの成果として、幼稚園児、小学生には1日 B13 / 1人のお金が国から支援されるが、中学生にはこの支援がないのですが、この学校では、中学生も給食費は払っていないため、作った野菜などをそれに充てていることが挙げられました。

2校目ワット・ノンサムラン学校は幼稚園、小学校のみの小さな学校で、学生数は91人（現在）と少ないです。学生数が少ない、貧困と行った理由により、学校は苦しい状況に置かれており、先生6人と手伝いの方1人で幼稚園～小学校6年生までの8クラスを見えています。そのため、4、5、6年生を一人の先生で担当している状況です。もともと、お寺の土地に村民の要望で学校を建てたのがこの学校のはじまりで、今でも借りている土地で、もし廃校（生徒が100人以下の学校を廃校にする方針があるため、この学校もその対象になり得ます。）になった時には学校はお寺の



所有物に戻るとのことでした。子供は4つの村から来ていますが、60%が貧困家庭、内20%が中学校に進学できるか分からない状況です。クッキちゃん（家を訪問したキャン奨学生）の様に両親がいない場合や、両親が子供の世話を全くしないため近所の人が見ていることもあるとのことでした。このような状況の中、貧困家庭の子供にとっては給食がとても大切な栄養源となっており、2～3人の生徒は夕飯も学校で弁当を作って持ち帰らせているそうです。

給食プログラムの運営状況としては、まず収支の書類を見せて頂きました。写真と共に、養殖のこれまでの様子がまとめられていました。キャンの支援金で昨年12月に養殖用のナマズを買い、試算では、2年間この養殖を継続できるとのことでした。生産物は、ナマズ、魚（魚は他の団体より寄付されたものです）、カエルです。



ナマズと魚の養殖状況ですが、学校の近くの田んぼの中に、大きな水溜といった感じの池があります。そこでまずナマズや魚を育て、食べごろになったものを捕獲して校舎裏の水槽に入れて、いつでも給食に使えるようにしています。12月の送金後、すぐにナマズを飼ったが、寒い日があり、多くが死んでしまったため、今年度は捕れた魚、ナマズの数少なく、ほとんど給食に使ってしまったが、来年度はたくさん魚を捕り、売ったお金で他のもの（肉など）を買うことも考えているとのことでした。

上記の給食プログラムの支援校それぞれで、新規奨学生を訪問しました。

一人目はメーちゃん、キャンではなく、FREEの新規奨学生でバン・クアン学校に通っています。家族は父（40）、母（35）、姉（17）、メーちゃん（小6）の4人です。お母さんはバンコクの工場で働いており、当日は訪問を知ってわざわざ帰って来てくれました。お父さんは村で床屋と稲作を兼業しており、メーちゃんはお父さんと暮らしています。メーちゃんは読書が好きで、家では皿洗い、洗濯、野菜の水やりなどのお手伝いをするそうです。学校の農作業も好きだと言っていました。



メーちゃんの家環境は、奨学生の中では良い方ではないかと思えます。仲の良い家族のようで、お母さんにはたまにしか会えませんが、いつもお父さんが居るので、その点は、両親ともに居ない子や、親戚に預けられている子よりも良い状況と言えます。

二人目はクッキちゃん、キャンの新規奨学生で、ワット・ノンサムラン学校に通っています。家族は祖父（72）、祖母（71）、おじさん（49）、おばさん（48）クッキちゃん（小6）の5人です。両親はエイズで亡くなりました。そのためか、クッキちゃんは「あまり話さない、笑顔も少ない。」と担任の先生のコメントにありました。一方、「書くことが上手で、母の日に『私のお母さん』という作文で賞をもらった。」とも書かれていました。クッキちゃんは本を読むのが好きで、祖父母を手伝って、田んぼの仕事もします。彼女は将来は医者か看護婦になることが夢ですが、経済的に難しいと思ってもいるとも言っていました。祖父母の年齢や古くなった家から察することができる困難な経済状況を考えると、何かしらの高額な支援がない限り、確かに進学は難しい状況かも知れません。



「どうしてお医者さんになりたいの?」と聞くと、「お父さんとお母さんがエイズだったとき、大変だったから・・・」と答えてくれました。彼女自信が辛い経験に、「夢を持つ」という方法で向き合っているのだと感じました。

6月30日ナコンパノム県にて奨学生訪問

その他、授与式を行えない日曜日にナコンパノム県にて、一人奨学生を訪問しました。

ター君はキャンの継続奨学生で、17歳、専門学校2年生です。家族構成は祖父、祖母、ター君が同居、別の村に父、弟のテー君（7）、義母が暮らしています。おじいさんは大分年を取って見えましたが、田んぼの仕事をしています。兄弟は大変中が良く、訪問時もテー君が遊びに来ていました。母親が7年前（当時ター君10歳、テー君7ヶ月）に他界、父は再婚して新しいお母さんの家で暮らしているということでした。ター君は小さかったテー君をよく世話し、そのためかテーはター君を慕っていて、少し大きなお腹を触ったり、ぺったりくっついたりしていました。お母さんが亡くなった事情は詳しくは聞きませんでした。7ヶ月の赤ちゃんを抱えて、10歳のター君を始め家族は大変だったのでないでしょうか。

現在、ター君は専門学校でコンピューターを勉強しており、卒業後はすぐに就職する道もありますが、進学を希望しており、キャンがFREEの大学生奨学金に応募することも考えていると言っていました。

この日は、昼頃にター君の家に着き、おばあさんの作ったお昼ごはんを頂きました。高床の家の下は涼しく、風がとても気持ちよかったので、しばらく話した後、私は30分程度寝てしまいました。その後、大きな樹、神聖な林、国王が提案した水門、その周りの公園、メコン川、そして有名な仏塔を見に、ター君と友達のパーちゃんがバイクに乗せて連れて行ってくれました。タイには貧困の問題があり、また、厳しい環境にある子供もたくさんいますが、その一方で、人々が暖かく、愉快で、美しい国だということを再確認した、とても楽しい1日でした。

報告2

～バンメーガオ学校を訪問して～

報告者 藤井 佳奈

キャンでは現在、メンホンソーン県、バンメーガオ学校の校舎の建設支援を行っています。7月初旬には西川会長とコーディネーターのむさんが、建設の信仰状況を確認するため学校を訪問しましたが、その際私もちゃっかり同行させて頂きました。3月には、参加者を募って、バンメーガオでの完成式をしようとするキャンではただいま計画が進行中です！そのため、まず学校の様子などを以下で紹介したいと思います。



授与式での旅程ではバンコクから東北に向かって各県を訪問しますが、メンホンソーンはタイの北の端に位置し、西にはミャンマーとの国境、東ではチェンマイ県に隣接している南北に細長い県です。授与式の旅を終えた次の日の早朝、バンコクからチェンマイに飛行機で向かいました。チェンマイからは、タクシーでのバスターミナルへ行き、そこからメンホンソーン行きのバスに乗り、4時間半の道のりを経て、メーサリアンに到着。ここのホテルで一泊しました。メーサリアンは外国人向けの観光地でホテルやゲストハウス、レストラン、カフェ、ジュエリーや雑貨のお店などがあり、こじんまりした綺麗な町です。チェンマイからは山の尾根ずんずん進んで来たのですが、想像していたよりも田舎ではなく、日本の昔ながらの観光地のような風情でした。しかし、バンメーガオはというと、メーサリアンの町から車で山道を45kmの道のりです。校長先生は毎日このくねくねした山道を通っているそうです。校長先生の車がかなり大きくて馬力があり、座席も上等なのに初め驚きましたが、この山道を送ってもらい納得しました。

学校には現在、幼稚園児から小学6年生まで合わせて131人の児童がいます。70%が集落の子供、40%が山の中から来ている子供で、そのうちの61人は通学が困難なため、校内の寮に入っています。先生は正規6人、カレン族の子供とうまくコミュニケーションをとるためカレン族の先生が一人。彼女以外の先生はカレン族の言葉を使えません。彼女はこの学校の一期の卒業生でもあり、現在はメーサリアンで土日の大学に通っているそうです。若くて、愛嬌のある目をした女性でした。



学生学生は大半がカレン族で、カレン族の言葉はタイ人のむさんでも、「全然なに言ってるのかわからない」タイ語とは全く別の言語です。隣国ミャンマーから引っ越して来た子共や、学校に入学したのが遅い子供もいます。学力や語学力で学年を決めるため、17歳の小学5年生もいました。彼は年齢が大きいだけに、リーダーシップを発揮し、学生を代表して挨拶をしてくれました。年齢が違って、言葉がうまく話せなくても、差別したり卑屈になったりせず、子供達が互いに仲よく、個性を認めて暮らしている様子が伺えました。

シーチャイ校長先生が14年前にバンメーガオに来たとき、生徒は16人しかいなかったそうです。先生は自分で村々を周り、子供を学校に連れて来るように親を説得しました。村人の助けも借りて、山奥に住む人々にも、声をかけて子供を連れて来ました。最初は反対する親もいたそうですが、今は教育の必要性が周知され、親が自ら子供を学校に連れて来ると学校が受け入れる習慣になっています。この地域では初の寮がある学校でした。

寮は構内の一角にまとまってあります。先生の寮が2、3棟、学生は男の子の寮と女の子の寮に別れて暮らしています。それぞれ、男の村、女の村として、村長、警察などの役割を決めて、学生に自治を与えているそうです。民主主義が校長の掲げる学校のモットーであり、寮の村長はみんなから選ばれた代表です。もちろん先生も子供達を手伝います。現在は小学校6年生の小柄な男の子が村長で、私たちに彼の「村」を紹介してくれました。彼の堂々とした出で立ちは小学6年生にして「村長」の威厳がありました。これも「民主主義」のモットーの成果なのではないでしょうか？彼の性格なのではないでしょうか？

キャンの支援金で建設してるのは新しい教室です。現在は教室が足りていないのです。当初は土台を作り、地面から少し上げて建設する予定でしたが、盛り土のみで大丈夫だと専門家が判断したため、そのまま地面に建ててありました。結果、資金の節約にもなったそうです。床の整地、壁、といった建物枠組みは完成しており、訪問時は床にタイルをはったり、テラスの壁をベンチにしたりする作業の途中でした。当時は土とコンクリートむき出しでしたが、今頃は、壁も床も綺麗な教室になっていることと思います。資材は学校が買い、労働は〇パーツ/m²というかたちで支払っています。記録を見せて貰いましたが、「しっかり付けてあるね」とむさんも関心していた。（もちろん私には読めませんが、むさんが言うなら確かでしょう。）完成後、改めてレポートにしてキャンに報告すると約束してくれましたので、詳細はその際にお知らせできるかと思います。



3月に参加者を募ってバンメーガオ学校を訪問するツアーを行う予定です。学校側が「完成式はいつしますか？」と言って完成式で、支援の主体であるキャンとご支援くださった皆様に完成した教室棟を披露することをとても楽しみにしていることが、ツアーを計画した一つの理由でもあります。個人的には、子供達も積極性や明るさ、校長先生の努力、学校の教育方針など、日本人の私たちが学ぶべきものを多く持っている学校ではないかと思っています。



また、少数民族が大半を占める学校ということで、他民族多文化が混在する国であるタイ特有の社会構造のおもしろさや問題点を知る良い機会になることも期待しています。学校にたどり着くまでの道のりは少し大変ですが、とても素敵な学校なので、会員の皆さんにもぜひ訪問して頂きたいと思っています。

募集

～2014年3月 完成式ツアー参加者募集～

今年、メーホンソン県バンメーガオ学校で行った校舎建設は無事に完了予定です。そこで、来年3月に、その校舎の完成式とチェンマイ「カサロンの家」見学を行うツアーを企画しました。山が美しい北部タイ観光と山岳部に住む少数民族の子ども達との交流がツアーの目玉となります。ワークキャンプのように労働作業はありませんので、健康な方ならどなたでもご参加いただけます。旅行会社の観光ツアーでは味わえない、現地密着型交流ツアーです。是非ご参加ください。

日 程：2014年3月15日（土）～22日（土） 8日間

場 所：タイ北部メーホンソン県、チェンマイ県

費 用：40,000円～50,000円（航空券が別途必要）

※タイ航空チェンマイ往復で約10万円程度）

行 程：1日目 午前中部空港出発～Bangkok～国内航空でチェンマイ～ホテル泊

2日目 チェンマイ発～メンホンソン～バンメーガオ学校～交流～宿泊

3日目 午前中子供達と交流～午後完成式～宿泊

4日目 朝学校出発～チェンマイ～午後カサロンハウス～交流～宿泊

5日目 午前チェンマイ観光～午後カサロン・希望の家交流～宿泊

6日目 カサロン・希望の家交流～チェンマイ～空路バンコク～夕方ホテル

7日目 ホテル～夕方まで自由時間・観光～夕食・懇親会～空港～機中泊～名古屋

8日目 午前中中部空港着～解散

最少催行人数：8名

応募締切：2013年12月末日

お問合せ：キャンヘルプタイランド事務局

電 話：052-566-5131（FAX 不可）

メール：canhelp@npo-jp.net

参加ご希望の方は、キャンヘルプタイランド事務局へ電話か電子メールで資料請求してください。詳しい案内をお送りいたします。

報告3

～翻訳ボランティアしませんか～

報告者 大矢 治夫

2013年度の奨学金プログラムは6/24日～7/2日において、東北地方11県を訪問して172人の子供たちに奨学金を直接手渡して参りました。実施の詳細はNT通信NO.62号に報告したとおりです。奨学金授与式に出席した子供たちからは個人の家庭調査票と、ドナー様への手紙を受取ってまいりました。

これらのタイ語の書類の全てを日本語に翻訳して、奨学金を提供くださったドナー様へ報告いたします。ドナー様にはご自分の支援している子供の事が始めて理解することとなります。

キャンの奨学金制度は支援くださる子供が卒業するまで支援を続けてくださる事をお願いいたします。子供たちの家庭環境や、子供の性格等の情報は支援継続のモチベーション維持にはとても大

切と考えています。

大量の翻訳作業はキャンのスタッフではとても賄い切れません。毎年大勢の翻訳ボランティアの皆様の支援活動によって支えられています。

家庭調査表はキャン名古屋事務所で第4日曜日の午後に、お菓子をつまみながら、ワイワイ楽しく作業をしています。

手紙の翻訳は主に在宅ボランティアの方に、メールの交換で翻訳していただきます。

名古屋事務所での「翻訳会」では、タイ人ボランティアと、日本人ボランティアがペーパーとなって、口述筆記で仕上げるのが効率的ですが、毎回日本人スタッフが足りません。皆様のご参加お待ちしております。

翻訳会参加ご希望の方はキャン e-mail またはTel・052-566-5131 へお問い合わせください。



運営委員会

(2013年8月～2013年10月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8月	事務所	翻訳会
運営委員会	9月	事務局	奨学金資料翻訳会、来年3月のキャンプについて
運営委員会	10月	事務所	3月ツアーについて 翻訳会

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

10月初旬、タイの友人が3泊ほど僕の家にもホームステイしました。バンコクの大学に通っている彼にとって都会はいつも見慣れた風景です、といっても街以外で面白い観光地が名古屋周辺には少ないので、どこに連れていか散々迷いました。名古屋に来る前にも東京で数日を過ごし、浅草などを観てきたらしいですが、どこもタイ人でいっぱいだったと彼は言っていました。

もし、読者のみなさんが外国人を日本で観光に連れていくとしたらどこを紹介したいですか?

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.63>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2013年10月31日
 住所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)

E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>